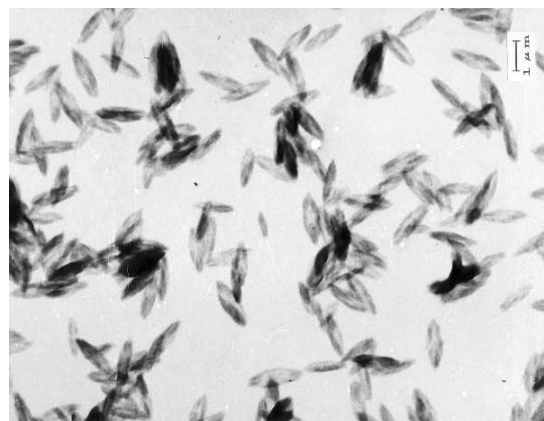


DISPARLON 4200-10 の特性とご使用方法

1. DISPARLON 4200-10 の性状と特徴（数値は代表数値）

4200-10は酸化ポリエチレンワックスを主成分としたコロイド分散剤で1～2 μ mの膨潤した粒子（TEM写真参照）が顔料、フィラー等に吸着することにより、系にチクソトロピックな性質を付与し、顔料沈降防止、ケーキング防止効果を発揮します。

外観	乳白色流動ペースト
主成分	酸化ポリエチレンワックス
加熱残分	10%
溶剤	キシレン
密度	0.87 g/cm ³ (20℃)
融点	100℃（固形分）



2. 使用方法

添加方法はディゾルバー分散しているベース塗料等に直接添加します。その際一種の溶ベントショックが起きないように、攪拌しながらの添加が凝集を防ぐ意味で有効となります。できればクリヤーへの添加ではなく、顔料、メタル等の存在下での添加の方が、凝集による分散不良粒子生成のリスクは少ないものと思われます。分散温度については35℃程度以下であれば問題ないものと考えますが、それ以上の温度（特に50℃以上の高温）となった場合はポリエチレンワックスの溶解部分の場合により分散不良を引き起こす可能性がありますので、十分な検証が必要です。

従ってポリエチレンの作用を安定なものにするためにも、添加および分散温度の管理が必要と考えます。また、当該製品はディゾルバー分散用に易分散タイプとして設計されておりますが、塗料系によっては分散性が変化するため、ある程度の剪断力が必要となることがありますので、十分な検証の上ご使用願います。

3. 貯蔵時の注意点

- 1). 直射日光を避け、室温（20～30℃）での貯蔵をお勧めします。
- 2). 40℃以上の高温では酸化ポリエチレンの一部が溶解し始めるため、40℃以上での長期貯蔵および繰り返し40℃以上になることはあまり好ましくありません。特に50℃以上では製品が変質する可能性がありますので、短期間でも50℃以上になることは避けて下さい。
- 3). 低温期は流動性が悪くなりハンドリングが悪化しますが、製品の性能に影響はありません。流動性が乏しく取り出しにくい場合は、十分な震蕩による流動性付与もしくは40℃以下の短期（1～2日程度）加温により流動性を付与した後、ご使用願います。

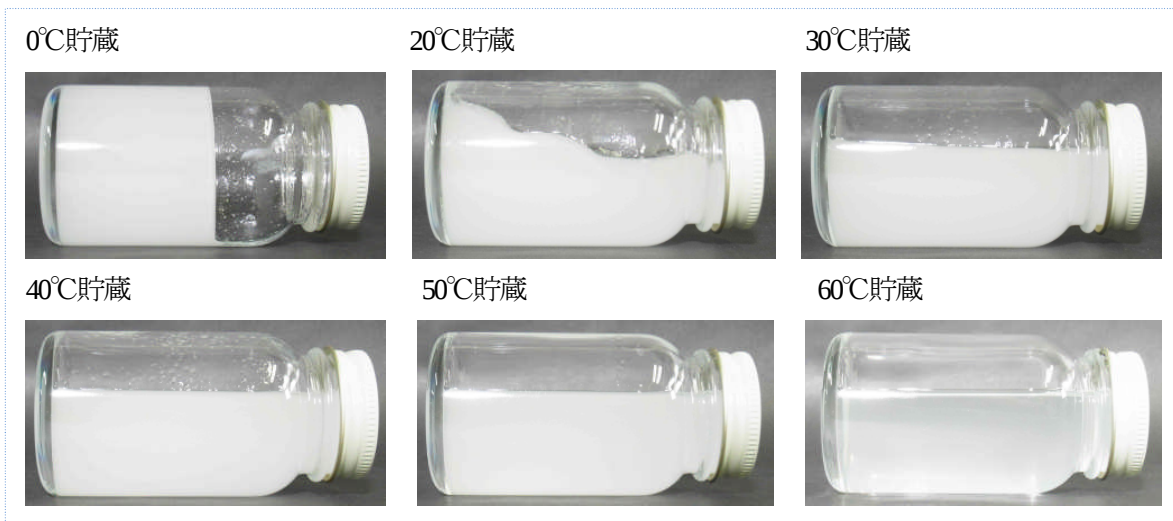


Additives for coatings and printing inks

DISPARLON[®]

参考資料

各貯蔵温度における 4200-10 の状態（流動性）について以下に示します。



実際の製品（正缶、ペール缶）においては20℃～40℃の間ではもう少し流動性が悪くなる可能性もありますが、その温度範囲であれば若干の震蕩を加えることで流動性は容易に得られるものと思われます。50℃以上の貯蔵では写真からもわかるように製品自体に透明感がでてきており、特に60℃では顕著でかなりの部分が溶解していることがわかります。50℃以上の貯蔵ではこのように溶解部分が多くなり、結果として分散性が悪化するため注意が必要です。



Kusumoto Chemicals, Ltd.

11-13, UCHIKANDA 1-CHOME, CHIYODA-KU, TOKYO, JAPAN
TEL: +81 (0)3 3292-8685 FAX: +81 (0)3 3295-0079
E-MAIL: info@ksc.co.jp